

終戦報内第一九五號

受時間
擔任

事務官
事務官

昭和二十一年五月十八日(土)
總務課

通情報

H Q との連絡

五月十六日

一、琉球方面送還中止の件

「ハワエル」少佐より一昨日御話しせし琉球方面送還の件は參謀長の計にて種々の議論を生み殊に奄美には食糧無く又沖縄本島に於ては現に既に十三萬八千名が米軍の「パブリックチヤージ」となり居る際更に多數を送還することと付異論あり、結局台計畫を一應「ストップ」して現地の事情を充分調査の上再考究することとなり、本件には海軍との関係も影響あり自分の案は結局「ビューアール」されたる次第なりと述べたるに付琉球方面の送還の時期が不明となりたりとのことなりや或は送還が全絶中止せらるる可能性もある次第なりやと問ひたるに今の所押し兼ねるも何れ三、四週以内には決定あるべしと答へたり

二、南洋群島原住民送還の件

浦賀に到着せる最初の六人は横濱第八軍軍政部「ダフ」少佐と連絡の上横濱にて乗船せしめられ、次の四人は二十七日浦賀に集合三十日横濱出帆の豫定

三、臺灣人送還の件

吳に千二百名程猶集結し居るに付二十日に最後の引揚船を配船し其の後は「ストップ」すべし十四日仙崎に到着せる二名の臺灣人に付ては「ホワイト」少佐に依頼し置きたり

四、南太平洋残存部隊との連絡

「ハウエル」大佐より最近日本政府より南太平洋地域に残存する陸軍の司令部と第一復員省との間の電報取次の依頼屢ある處特別の理由なき限り拒絶することとすべしと述べたるに付特重大なる問題に關しては特に御願することとあらべしと述べ置きたり

五、受入港滞留人員

- 博多 〇 鹿兒島 二二八三、佐世保 三六三六、吳 四三、舞鶴 〇
- 仙崎 一六〇〇、田邊 〇、浦賀 〇、名古屋 三〇一六

陸軍省 第一 第五

昭和二十一年八月八日(土)